

## 長谷部 孝司（はせべ たかし）

教授

専門分野／日本経済論、金融論。現在は主に、米国と比較しながら日本の金融改革の動向について研究

て研究

早稲田大学政治経済学部、筑波大学大学院博士課程満期退学、埼玉大学非常勤講師、法政大学非常勤講師、東京成徳大学人文学部教授を経て、平成 26 年現職。

著書：『経済のソフト化・サービス化と金融改革』（単著、社会評論社、2013 年）、  
「アメリカの金融システムの変容と証券化の意味」（単著、社会理論学会編『社会理論研究』2011 年



### 「よい出会い」が生き方を決める

17, 18 歳の頃に、文芸評論家亀井勝一郎さんの『愛の無情について』と『青春論』（角川文庫）を読みました。内容は、若者向けの人生論です。人生において最も重要なものは「邂逅」、つまり様々な人や書物との「出会い」である、ということが書いてありました。

当時の私は、これに強い違和感を覚えました。「出会いとは所詮は偶然である。人の一生が偶然に左右されるなんて我慢できない。自ら『選ぶ』ことが『自由』ということではないか」。こんな未熟な感想を、強く抱いたことを覚えています。

その後、大学、大学院に進んで思いがけない二つの体験をしました。まず、大学に入学して二人の先輩に出会いました。とても大きな影響を受け、進路について何も決められていなかった私が、大学院への進学を決心することができるようになりました。さて、大学院を選ぶときには、今度こそはと、自らが師事したいと思う先生を「選んで」進学しました。しかし、実際に入ってみると、選んだ先生とは別の先生の影響を強く受けるようになりました。結局、いま私がモノごとを考えたり書いたりしている根本の多くは、偶然出会ったその先生の強い影響の下にあるということになりました。

こうした二つの経験から、私は「出会い」の重要性を、いやでも認めざるを得ないことになりました。否、今ではとても素直に認める気持ちになりました。「自由になる」とは、どうやら私が思っていたこととは、だいぶ違う意味だったようです。

学生の皆さんには、この 4 年間を通してたくさんの仲間や教職員、さらには多くの書物と交わり、様々な「出会い」を経験して行ってほしいと思います。出会いのチャンスは、人の多さとは直接関係がありません。都会には多くの人々がいますが互いに無関心で、出会いは存外多くありません。出会いのチャンスは、皆さんが自ら他者と「ふれあいたい」と願う積極的な気持ちを、どれだけ強く持っているかということによって大きく広がります。本学には、皆さんと同じ時間や空間を一緒に生きていきたいと思っている教職員や仲間がたくさんいます。図書館にもたくさんの本が揃っています。そのような素晴らしい環境を十分に活かして、実り多いキャンパスライフを創り出して行って下さい。応援します。